
黄金樹の瞳 転生を繰り返すものラーベラム

エディルン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黄金樹の瞳 転生を繰り返すものラーベラム

【Nコード】

N14440

【作者名】

エディルン

【あらすじ】

契約者を得ることによって、新たな姿と人格を手に入れる精霊ラーベラム。

新たに生まれ変われば、その人格までもが変わってしまう存在。だが、生まれ変わる前の記憶は、脈々とラーベラムの中に受け継がれ続ける。

そのラーベラムには、数知れない過去の思いが宿っている。

(『黄金樹の瞳』の番外編です)

(前書き)

前書き

この物語は、『黄金樹の瞳』の番外編です。
本編との関連性は薄いですが、本編を読んでいた方が、理解しやすいと思います。

黄金樹の瞳

転生を繰り返すものラーベラム

しんしん
しんしん
しんしん

ただ静かに、白い雪が降り続ける白の荒野。

馬車から降りたラーベラムの前に広がる光景は、ただひたすらの銀の色の荒野だった。

かつて、彼女が恋をした人がこの場所にはいた。

もう何人目の契約者であったことだろう。

もう、数百年もの歳月が過ぎ去ってしまった。

かつては、ここにあった都市の姿までなくなってしまった。

あの街の姿も、恋を抱いた人も、今ではもう誰も知らない。

……そう、ラーベラムの記憶の中でさえ、すでに恋した人の顔が、薄ボケて思い出せなくなるほどの、長すぎる歳月が流れ去っていた。

ラーベラムの銀の瞳は、切なげに雪原の光景を見続ける。

「どうした、ラーベラム」

と、過去に浸る彼女を心配する声。

それは、今のラーベラムの契約者だ。

「いえ、何でもないです。」

ただ、少し寒いと思っただけです」

スッ

契約者は、懐にラーベラムを抱き寄せる。

「あ、あの、どうしたのですか突然！」

「いや、今の君を見てみると、まるでどこかに行ってしまうように思えてね」

「……」

この人は、私の心を見透かしている。

昔の私の記憶は知らなくても、何を思っているのかはわかっているのだろう。

契約者の暖かな体に抱かれると、その温もりが衣服ごしにも伝わってきた。

トクン

トクン

トクン

死んだ人間にはない、暖かくて、強い心臓の鼓動が聞こえる。

それは紛れもなく、今のラーベラムと同じ時を、この契約者が共にいてくれる証。

顔を思い出すこともできなくなった、人とは違った。

「安心してください。」

私は今この時を、あなたと共に生きています」

ラーベラムはそう言って、契約者に穏やかに微笑んで見せた。

流星の尾を束ねたかのような、神々しい銀髪の美女ラーベラム。
その彼女の笑う様は、しかしどこか寂しく切なげだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1444o/>

黄金樹の瞳 転生を繰り返すものラーベラム

2010年10月14日10時09分発行